

車いすテニスを体験！

12月7日、区立柏の宮公園庭球場（浜田山2-5-1）では、車いすテニスの体験会が実施されました。これは、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受け、大会を支援するサポーターの育成のために行ったもので、テニス経験がある23名が参加し、北京パラリンピック代表の車いすプレーヤーと初めての車いすテニスを楽しみました。

車いすテニスは、障害者と健常者がスポーツを通じての交流することに加え、2020年に開催されるパラリンピックのサポーターとして活動する人材を育成することも、ねらいの一つです。講師は、北京パラリンピック代表の池ノ谷選手のほか、星義輝（ほしよしてる）選手、松浦吉加司（まつうらよしかつ）選手の3名です。

午前中は、松浦選手（47歳）から、移動用のほかに、車いすテニスには専用の車いすが必要で、ラケットやウェアなど荷物が多いこと。新幹線や飛行機の通路は、車いす利用者には狭いこと。どうしても車での移動が多くなるが、障害者用駐車場が少なく、とても困ることが多いなど、そういった障害者の日常生活に健常者や企業が様々なアイデア出してほしいことが語られました。また、車いすテニスがコートをつぶすことを心配して、施設の貸出を断られることもあり、テニスコートの確保の悩みの一つです。



松浦選手は、10年前に仕事で脊椎損傷の事故が原因で車いすの生活になりました。6年前に、自宅近くの北区にある東京都障害者総合スポーツセンターで、車いすテニスに出会いました。それまで、まったくテニスの経験はありませんでしたが、車いすテニスを始めたことで、何事にも前向きになりました。松浦選手は、「障害者も健常者も、何も変わりません。いろんなことに挑戦したいし、楽しみたいです。」と笑顔で話していました。

午後には、参加者が車いすテニスを体験しました。悪戦苦闘をしながらも、選手からの指導を受け少しずつ球が打ち返せるようになりました。参加者の一人は、「今回、障害者の方と一緒にテニスできて、とても良かったです。これからも、このような機会を作ってほしい。」と話していました。

【問い合わせ先】杉並区スポーツ振興財団：電話03-5305-6161